

早期封じ込めに関するガイドライン 概要（案）

1. 早期封じ込めの概要
2. 早期封じ込めの意義
 - ① 背景
 - ② 目的
 - ③ 「早期封じ込め」以降の対策との連携・連続性
3. 責任と役割
 - ① 主体と指揮命令系統
 - ② 国の役割、地方自治体の役割、各省庁・関係部署の役割
 - ③ 連携と情報共有
4. 早期封じ込めが成功するための条件
5. リスクコミュニケーション
 - ① 事前のリスクコミュニケーション
 - ② 早期封じ込め実施の際のリスクコミュニケーション
6. 早期封じ込め戦略の構成要素
7. 人材育成と人材確保
 - ① 業務分類
外部委託不可能な業務、一定の研修後に対応可能な業務、外部委託可能業務
 - ② スタッフの研修
 - ③ サージキャパシティ（臨時スタッフの研修）
8. 初期評価に基づく早期封じ込め実施に関する決断
 - ① 早期封じ込め第二期対応（地域対策）
 - ② 感染リスクに応じた対応（個別対策）
9. 早期封じ込めの二段階戦略
 - ① 症例もしくは集積を探知して直ぐ行うこと（第一期対応）
 - ② 早期封じ込め実施（第二期対応）
10. 情報収集と評価
 - ① サーベイランス
 - ② 接触者追跡調査
 - ③ 初期評価
 - ④ 強化サーベイランス
 - ⑤ 効果的効率的なデータ管理（データベース）
 - ⑥ 後期評価（発生動向評価、早期封じ込め効果の評価）

11. 実施方法

- ① 第一期対応
- ② 初期評価（診断の評価、発生状況の把握）
- ③ 第二期対応

12. 早期封じ込め対象地域外の対策

- ① 移動制限
- ② 強化サーベイランス（症例、クラスター）

13. 後期評価と方針決断

- ① 後期評価の時期と目的
- ② 発生動向評価
- ③ 早期封じ込め効果の評価
 - 発生終息、小規模感染の継続、感染拡大
- ④ 方針決断
 - 早期封じ込めの継続、修正継続、完了
 - 次期対策への継続、連携

参考資料